

RAIS2:1

取扱説明書









RAIS2:1

目 次

亨	4
保証	4
仕様	5
据え付けに関する指示	6
コンベクション(対流)	7
煙突	7
据え付け/据え付けに関する指示	8
ストーブの組み立て	9
設置距離	10
ストーブの離隔距離	14
ストーブの使用に関する指示/燃料	16
薪の乾燥と保管	17
然焼空気の制御	17
室内の換気とストーブ	17
薪ストーブの使い方	18
コントロール	18
初めて焚くとき	18
点火と薪の補給	20
帰除と手入れ/燃焼室の掃除	22
煙道の掃除	23
軍転も由継せてした	2/

序

ライス薪ストーブをお買い上げいただき、ありがとうございます。この機種は、断続的薪焚きストーブとして、HETAS社の認定を受けています (HEASは、固形燃料焚きストーブなどに関する政府公認の認定機関です)。

ライス薪ストーブはありきたりの暖房器具ではありません。デザインや品質に 対する持ち主のセンスまでわかる製品です。

この薪ストーブを最大限にご利用いただくためには、据え付けや運転の開始前に、この取り扱い説明書を読み通していただくことが重要です。

保証内容や薪ストーブに関する一般的なご質問の際には、生産番号を示していただく必要があるので、生産番号は重要です。今、この場で、ストーブの生産番号を記録してください。生産番号はストーブの底面の奥(後方)にあります。

保 証

お客様の手元に届いたライス薪焚きストーブには 5年間の保証がついています。ただし、バーミ キュライトやガラスとガスケットロープは、保証 の対象になりません。

ストーブを改造した場合には、保証は適用しません。

仕 様

	RAIS 2:1
出力kW	6
出力(最小 - 最大)	3-9
暖房面積 (㎡)	45-135
ストーブ寸法 (幅、奥行き、高さ) mm	807-458-914
上の燃焼室の寸法(幅、奥行き、高さ)mm	500-244-374
最適の薪投入量(kg) 約25cmの薪1~2本	2.1
最小ドラフト(最小通気量)(パスカル)	-12
重量 (ソケット (重し受け口)) を含む kg	140
効率 %	79

▮据え付けに関する指示

薪ストーブは、安全で適切な据え付けが必要です。現場の条件によっては、多少の修正が必要かもしれませんが、すべての据え付けにおいて、現行建築規制法、地方条例/規制に関する事項は必ず遵守しなければなりません。

●ハンドリング(取り扱い)

ストーブは非常に重いので、荷揚げ、荷下ろし、移動の際には、その重量に十分対処できる施設や設備が必要です。

●石綿

本機には石綿は使用していません。ストーブの設置場所に石綿があるかもしれないときは、専門家を呼んで、指導を仰ぎ、適切な器具を使ってください。

●金属部品

据え付けやサービスに際しては、怪我をしないように注意してください。

① 重要な警告

準備作業と安全チェック

- ●接続させる煙突は、このストーブだけが使うものでなければなりません。同じ煙突を別の暖房器具と共 用しないでください。
- ■ストーブを設置する部屋に換気扇があると、ストーブの煙が室内に逆流することがあります。同じ部屋に 換気扇がある場合は、取扱に注意が必要です。
- ●既存の煙突に本機をつなげるのであれば、設置前に煙突を掃除し、破損がないことを確認し、適切な煙 突であるなどを調べます。

■コンベクション(対流)

ライスの薪ストーブは対流型のストーブです。後面と側面は極端には熱くはなりません。暖気を対流させて確実かつ均一に部屋中に広がるようにします。ストーブの下部から取り込まれた冷たい空気は、燃焼室に沿って走るコンベクションチャンネルを通過します。空気は、このチャンネルを通過中に暖められ、ストーブ上部のダクトから室内に放出されます。部屋全体をむらなく回る暖かい空気の対流を作ります。

コールドハンドルが装備されています。グローブなしでも操作できますが、ストーブを使用している間は、すべての面が熱くなります。グローブを着用して操作することをおすすめします。

■煙 突

煙突は、ストーブを機能させるための駆動力のようなものです。ストーブの性能を存分に発揮させるには、適切なドラフト(14~18Paパスカル)を発生させなければなりませんが、そのためには、煙突が十分高くなければなりません。ドラフトが正しければ、燃焼によって生成する物質を取り除け、ストーブ燃焼中に煙が室内に逆流するトラブルも避けられます。

既存の煙突を利用して据え付ける場合、その煙突は、健全で、ひびや裂け目がなく、家の中に煙が入って来ない ものでなければなりません。

既存の煙突にストーブを取り付けるときは、据え付け直前に、煙突が詰まっていないこと、掃除がしてあること を確認してください。ストーブがオープンファイヤーのあった場所に取り付けられる場合は、ストーブの取り付け から一ヶ月後にもう一度煙突をチェックして、詰まっていないか、すすが落ちてないかを調べるべきです。

シングル金属煙突は、ストーブと煙突の連結部分に使うには適していますが、煙突全体に使うには適していません。煙突と連結管の直径は最低150mm必要で、そのサイズは、ストーブ出口の受け口(ソケット)(直径 150mm)より小さいものは使用できません。曲がり部分の角度は、煙突、連結管ともども45°以下でなければなりません。曲がり角度が90°のものは、極力使わないでください。

燃えやすい物を、ファイヤープレース、壁、煙道を通して熱が発散してくる場所の近くに置かないでください。可燃性の物質があるところにこのストーブを取り付けるときは、離隔距離を守って据え付けなければなりません。 過剰なドラフトが発生することが判明した煙突では、調整可能なフルー・ダンパーかドラフト・スタビライザー (ドラフト安定器)を取り付けてください。調整可能なダンパーは、煙道を完全に閉じてしまうものではなく、「閉」の位置にしても、煙道やパイプの総断面積の最低20%が開き続けていられるようなものでなければなりません。

煙突や連結管を掃除するときのために、たとえば煤掃除などのためのメンテナンス用点検ドアなども整えてく ださい

また、煙道が二つある煙突のドラフト状態についても、精通しておいください。

煙道出口の差し込み口の直径は150mmです。

ドラフトが強いときは、煙突や煙道にドラフト安定装置(スタビライザー)を取り付けるべきです。その際大事なことは、ゲートを閉じても、最低20㎡の空気が通り抜けられる部分を確保することです。さもないと、燃料のエネルギーが最適利用されません。煙突の状態について気がかりなことが起きたときは、必ず煙突掃除業者に連絡してください。

▮据え付け

ストーブに、認可されていない改造を施すことは禁じられています。

ストーブが正常に燃焼するためには、ストーブを設置する部屋にが正圧であることが条件です。同じ部屋に機械的な排気装置(キッチンの排気フードなど)があると、ストーブに向かう空気の供給が減ってしまいます。通気格子(エアコンの吹き出し口のようなもの)を取り付けるときは、ストーブへの給気が損なわれないような位置を選んで取り付けてください。

このストーブには対流空気の出口が2つ付いています。これに適切な通風ダクトをつなぐと、暖かい空気を別の部屋に送ることができます。

ライスの薪ストーブの置く場所を選ぶ時は、別の部屋にも暖かさを回せるかどうかを配慮すると、ストーブを有効活用できます。ストーブは可燃性の物に対しては安全な離隔距離をとって据え付けてください。薪ストーブに貼ってあるメーカー・ラベルをご覧ください。

■据え付けに関する指示

注記: コンベクション・システムの吸い込み口、吐き出し口の位置を決めなければなりません。対流ホールに関する領域条件を満たさなければなりません。熱い空気が上るため、ドアや対流空気出口の上方の壁は変色するかもしれません。ライス社は、据え付け完了後の建物への損傷については責任を負わないことをご了承ください。

ストーブは、届いたらすぐに欠陥がないかどうか調べてください。

ストーブをパレットから持ち上げ、据え付け場所に運びます。このとき、据え付け場所の床には、予め適切な対策を 施しておいてください。

ストーブは、調整ネジで調整することで、ガラスドアの低い辺が水平になり、ドアを締めたときドア表面が垂直になるようできます。

フロントプレートとドアをストーブから外します。ドアガラスを傷つけないように気をつけてください。ハンドルの保護テープやプラスチックは付けておいてください。

非断熱性の連結管を、燃焼室内側にある煙道出口に取り付けます。大事なことは、連結管とストーブの間に漏れがないことです。連結部は適切なガスケットか化合物で密閉することをお勧めします。

断熱フルーパイプを取り付け、煙突につなぎます。

もし外気取り込みシステムを取り付ける選択をしたのなら、この時点でパイプの突出部に取り付けて下さい。 パイプを、コンベクション・システムの出口に取り付ける工事をする場合、先に進む前に、この段階で行って下さい。

ストーブをパネル壁あるいはレンガ壁に取り付ける準備ができました。

壁を作り、塗装し終えたら、フロントとカバーを再び取り付けます。プラスチックの保護材やテープはすべて取り 除いてください。

フロントプレートは、壁の最大厚さに調整して工場から出荷されています。トップと底のボルトは緩く止めてあります。フロントをそっと壁の方に押します。閉めた状態で、フロントが壁およびガラスドアと平行かどうか確かめ、必要なら、フロント部を調整してください。トップと底のボルトを締めます。

▮ストーブの組み立て

注記:・対流システムの入口と出口の位置について決定する必要があります。

- •コンベクションシステムのストーブドアおよび排気口の上の壁が変色する可能性があります。これは高温の空気のためです。
- •設置または派生的な損害に対して一切責任を負いません。

パレットからストーブを取り出します。ストーブの位置をより高くしたい場合は、架台などを使用してください。 ストーブは、ドアの上側のガラスが閉じた位置で水平であり、ガラスの表面が閉じた状態で垂直になるように、ねじを用いて位置合わせができます。

パッケージからカバーとドアを取り外します。衝撃で簡単に損傷するので、ガラスの取扱に注意してください。ステンレス製のダンパーハンドルに保護テープを残しておきます。

対流チャンバー内の煙突の襟に煙突の非絶縁部分を取り付けます。

煙突口元とストーブの間にすき間がないことが重要です。組立中にワッシャーでシールすることを推奨します。 ストーブは、耐火壁パネルまたはレンガ壁に設置することができます。

壁が完全に設置され、塗装した後に必要に応じて、カバーパネルとドアを取り付けます。

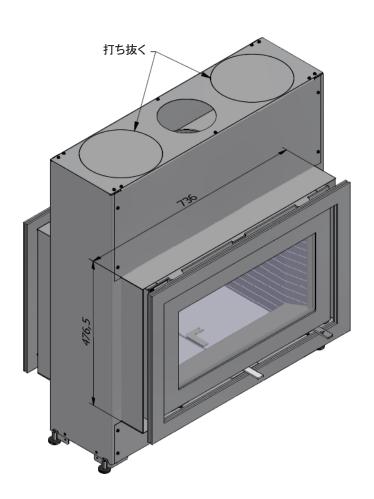
カバーは、工場からの最大幅に調整されています。

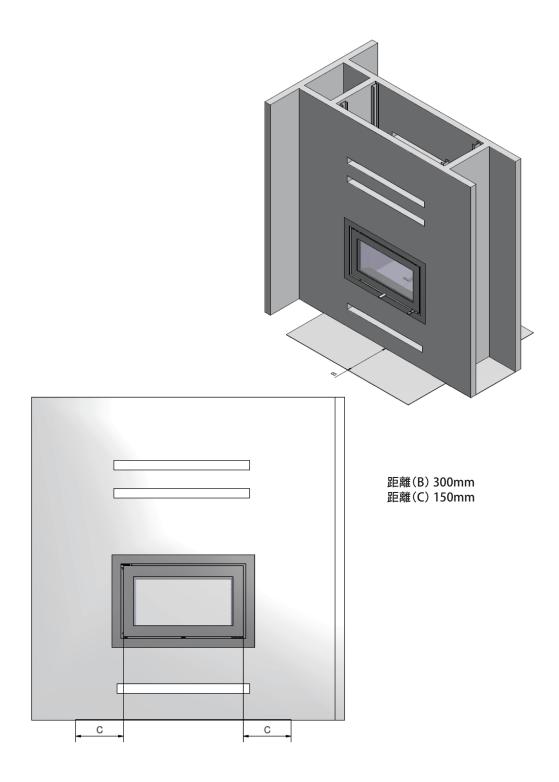
上下のネジを緩めます。

カバーを壁に押し付ける。

カバーが閉じているときにカバーが壁とドアガラスと平行になっているかどうかを確認します。

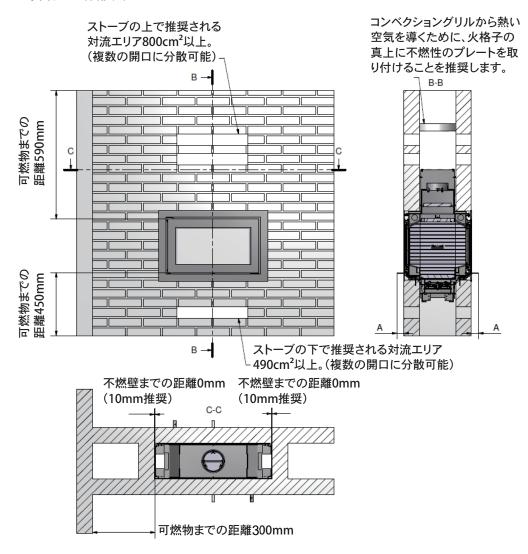
必要に応じて、カバーを調整します。





■レンガ壁の取付距離

家具までの距離(A) 600mm



▮非可燃壁とストーブとの離隔距離

掃除をする時のことを考え、最低50mmの離隔距離をとることをお勧めします。

点検ドア周りのスペースは、必ず空けておいてください。

断熱されていない連結パイプを使うときは、可燃性壁と連結管との距離は少なくとも225mm 必要です。

■可燃壁とストーブとの離隔距離

ストーブ設置場所の脇の壁材が可燃性物質かどうかについては、建築施工主等に問い合わせて、確かめてください。

ハース(炉床)は、ストーブの重量に耐えられなければなりません。また、煙突は、これとは別に、ウオールブラケットか 天井支え板で支えなければなりません。

ストーブを木の床に設置する場合は、非可燃性の物質で床をカバーしなければなりません。カバー範囲は、ストーブの手前は300mmまで、両側は(燃焼室ドアから測って)それぞれ150mmのところまでです。

■作業後の確認

据え付けが完了すると、いよいよ初焚きをすることになりますが、その前に、組み立てや据え付けが十分満足に行われたか、密閉部分(シール)や連結部分に漏れがないかなどを確認します。

ユーザーにストーブを最終的に引き渡す前に、ストーブや煙突が正しく機能しているかを確かめてください。

ユーザーに、「ストーブの立ち上げが完了したので、使える状態になった」ことを告げ、ストーブの取扱説明を行います。

■ストーブの使用に関する指示

HETAS社の認証は、よく乾燥させた薪を焚くことが前提になっています。薪以外の燃料や、薪とその他の燃焼を組み合わせて焚いた使用は、HETAS社の認証の範疇に入っていません。

■燃料

このストーブは、乾燥させ、割った薪に関する規格「EN 13240およびNS 3058」に従って設計、承認されています。薪の水分含有量は15~22%で、薪の最長は、燃焼室の幅から50~60mmマイナスした数字です。

湿った薪を焚くと、ススや環境公害物質が発生するだけでなく、燃料が不経済になります。切りたての木はその50~70%が水分なので、ストーブで焚くにはふさわしくありません。新しく伐採した木は、一年間乾燥させてから使ってください。直径が100mm以上の木は割って使います。薪のサイズにかかわらず、薪は常に皮のついていない面が最低一面は必要です。

塗料を塗った木、ラミネート加工した木、防水剤などを注入した木、表面が合成物質の木、塗装された廃材、木くずから作った板、ベニヤ板、家庭ゴミ、ペーパーブリケット、坑口炭は焚かないでください。理由は、強い臭いや毒を発生させるかもしれないからです。

こうした物や、先にお勧めした以上の量の薪をたくと、ストーブは過剰な熱にさらされ、その結果煙突の温度が上がり、効率が低下します。結果的に、ストーブと煙突に損傷が起こりえます。そうなると、保証は無効になってしまいます。

薪のカロリー値は、薪が含む水分量と密接な関係があります。湿った薪は熱価値が低いのです。そのわけは、薪中の水分が多いほど、その水分を蒸発させるためにエネルギーを食われてしまうので、その分、暖房用のエネルギーを損してしまうのです。

お勧めする燃料以外は使わないでください。

下記の表は薪の木種ごとのカロリー値です。2年間乾燥させたもので、残留水分は15~17%です。

樹種	乾燥薪kg/m³	ブナやカシとの比較
シデ	640	110%
ブナとカシ	580	100%
トネリコ	570	98%
メープル	540	93%
カバノキ	510	88%
灌木性マツ	480	83%
モミ	390	67%
ポプラ	380	65%

木の種類に関係なく、1 kgの木からは同量の熱エネルギーが発生します。違うのは、1 kgのカバノキは1kgのモミノキよりもスペースをとらないということです。

■薪の乾燥と保管

木の乾燥には時間がかかるもので、適切な乾燥には2年ほどかかります。

アドバイス

- ●木は鋸で切り、斧で割り、風通しと日当たりの良い場所に積み上げてください。家の南側が特に適しています。 雨がかからないようにしてください。
- ●薪は、手の幅ほど離して積んでください。こうすることで、薪の間を空気が通れるので、水分をいっしょに運んでいってくれます。
- ●積んだ薪にビニールシートなどをかぶせないでください。水分が飛んでいきません。
- ●薪は、焚く2、3日前に室内に入れておくと良いでしょう。

■燃焼空気の制御

ライスのストーブには、片手の操作でダンパーを調整できるレバーが付いています。

一次燃焼空気は、一次燃焼空気ゾーン(赤く輝く燠き火の床)に送られます。この冷たい空気は、点火段階でのみ使われます。

二次燃焼空気は、ガス燃焼ゾーンに与えられ、高温加熱ガスを燃焼させるのに使われます(高温加熱ガスとは、予熱された空気のことで、ガラス面の掃除と燃焼に使われます)。二次燃焼空気は、燃焼室の下にあるダンパーから吸い込まれ、火室側面のチャンネルを通過するにつれて加熱され、高温の空気流となってガラスに向かって放出されます。これがガラスについた"煤"などを"食べてしまう"ので、ガラスはすすがれ、いつもクリーンなのです。

三次燃焼チャンネルは、燃焼室上部の奥の方に向かって見えますが、最後まで残ったガス残留物はここで燃焼します。

ポジション1とポジション2のあいだに間(ま)を設けたことで、燃焼用にも、高温加熱ガスの燃焼にも酸素が得られるようになり、薪の持つエネルギーが最も望ましい形で利用されるようになりました。炎が澄んだ黄色であれば、ダンパーは正しくセットされています。使い慣れるにつれ、正しいポジションがわかってくるでしょう。

ダンパーは完全に閉めないようにしてください。よくある間違いとしては、ダンパーを閉めるのが早すぎることです。ストーブが熱くなったと思ってダンパーを閉めてしまうのですが、煙突からは黒煙がのぼっているはずで、薪のカロリーもフルに利用できていません。

■室内の換気とストーブ

ストーブを据え付けた部屋に、何か強制排気ファン(換気扇や空気清浄機)が設置してあると、ストーブがくす ぶって、煙や臭いが部屋に逆流するかもしれません。

ストーブを安全で効果的に運転するためには、絶えず十分な燃焼空気を供給していなければなりません。現行の建築規則により、ストーブを設置する部屋に恒久的な給気装置の設置が定められている国や地域では、そうした装置は絶対に閉めたり塞いだりしてはいけません。

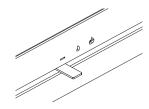
▮薪ストーブの使い方

ライス2:1をお使いいただくときに大事なことは、薪の量を守ることです。最大投入量のマーク以上には、入れないでください。燃焼室の両脇のバーミキュライトプレートに「MAX LOAD」と刻み込んであり、高さにしておよそ19センチですが、これが最大投入量の印です。薪はこれ以上には入れないでください。

空気取り込みダンパーの調整は3段階に分けて行います。

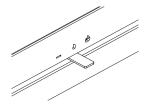
●ポジション 1

ダンパーはほぼ閉まっています。つまり、最低量の空気しか取り込めません。



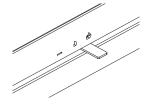
●ポジション 2

レバーを、最初にかちっという音がするまで引きます。この位置では、二次燃焼空気がフルに取り込めます。通常の焚きでは、このレバーはポジション1か2にセットしておきます。炎が透明で黄色いときは、ダンパーが正しく開いています。つまり、ゆっくりとした最適燃焼状態になっているということです。



●ポジション3

次に「かちっ」と音がするまでレバーを引くとダンパーが全開し、一次、二次燃 焼空気がフルに入ってきます。このポジションは、点火のときだけ使うもので、 通常の運転では使いません。



【コントロール

ストーブを焚いた後、灰が白くて、燃焼室の壁にすすが付いていないときは、空気調整が正しく設定され、薪も 十分乾いていたということを意味します。

■初めて焚くとき

始め良ければ終わり良し。上手に燃焼を始めると、報われます。火は小さく起こしましょう。そうすることで、ストーブを徐々に高温に馴らしてあげるのです。これで、最善のスタートが切れ、損傷が起こるのを回避できます。

最初に火を焚いたとき、なじみない臭いや煙が立つのを感じるでしょう。これは無害です。塗料や加熱過程で硬化する物質からのもので、臭いはすぐに消えます。できれば、換気やドラフトを点検してください。いつまでも臭いが続くようであれば、下記の「重要 - 警告」のところをよく読んでください。

このプロセスにおいては、塗装された表面に触れないよう、気を付けてください。ドアの密閉シールがくっついて しまわないようにするため、ドアも定間隔で開け閉めしてください。

ストーブが暖まる/冷めていくとき、「カチカチカチ」という音がするかもしれません。これは物質が大きな温度変化を被るときにたてる自然な音です。

点火のときや火を保とうとするとき、絶対に液体燃料を使わないでください。どのような種類のものでもだめです。爆発の危険があります。

ストーブ使用中は高温になるので、ストーブをいじるときは必ず防護手袋をはめてください。

長期間ストーブを使わなかった後に焚くときは、初めて焚くときと同じステップを踏んでください。

♠ 警告

正しく据え付け、正しく運転・維持していれば、ストーブの中のにおいが部屋に漏れてくることはありません。灰を捨てたり、薪を足したりするときには、多少のにおいがするかもしれませんが、もしその臭いが長く続くときは、危険なことが起こっているのかもしれません。放置せず、すぐに、下記の行動をとってください。

- 1. 部屋のドアや窓を開けて、室内の換気をする。
- 2. 火を燃え尽きさせるか、燃料を安全にストーブから取り出す。
- 3. 煙道や煙突が詰まっていないか調べる。必要なら掃除をする。
- 4. 臭いの原因が明らかになり、きちんと対処し終わるまで、火を焚いてはいけません。必要なら、専門家にアドバイスを求めてください。

⚠ 警告

ストーブが燃えているとき、エアロゾル・スプレーをストーブの上方や付近で使ってはいけません。

⚠ 重要

安全のために!

子供、高齢者、虚弱な人がいる情況でストーブを使うときは、何かの拍子にストーブに接触することのないよう、フェンス等を使うなどして体制を整えてください。

■点火と薪の補給



ストーブに点火するためには、アルコール・ブリケット着火剤、あるいは2kg の薪を細く割った焚き付けを使います。空気取り込みダンパーは全開の位置にセットします。



火を付ける前にすること

ストーブの中から(煙突を通して)空気が部屋の中に吹き込んでいる場合、、 新聞紙をひねって、それを上部バッフル板と煙突の間に置き、新聞紙に火を つけ、しばらくおきます。しばらくすると、上昇気流が発生します。







火を付けてドアを閉めますが、このときドアは $10\sim15$ mmほど開けておいてください。



炎が透明になったら(約5~10分後)、ドアを閉めます。



約10~20分経つと、赤く輝く熾き火の床ができているでしょう。ここで、2~3本の薪をくべます。ドアは少し開けておき、火が勢いよく燃えてきたらドアを閉めます。



5分ほどして炎が透明で安定してきたら、ダンパーを徐々に閉めていきます。

灰の層の厚さは20ミリほどがいいでしょう。これにより断熱効果が生まれます。



注意!
ストーブの運転中、ドアは常に必ず閉まっていなければなりません



■掃除と手入れ

薪ストーブは、1年に1回、煙突掃除業者に頼んで掃除をしてもらってください。掃除やお手入れの間、ストーブは冷えていなければなりません。

ガラスにすすが付着していたら

- ●湿らせたティッシュや柔らかい布に灰を付け、それでガラスについている煤をこすり取ります。
- ●その後柔らかい布でこすると、ガラスはきれいになります。
- ●灰で磨く代わりに、ストーブ専用のガラスクリーナーを使用することもお勧めします。

外側は、乾いた布で掃除してください。

■燃焼室の掃除

灰はシャベルですくって出し、燃えない容器に入れ、冷まします。冷めた灰は、袋に入れ、家庭ゴミとして捨ててください。

重要

薪ストーブは、1年に1回、煙突掃除業者に頼んで掃除をしてもらってください。掃除やお手入れの間、ストーブは冷えていなければなりません。

長期的にストーブを焚かなかった場合

しばらくストーブを使わなかった場合は、すみずみまで掃除をして、灰や燃え残った燃料を取り除いてください。 固体化とそれによる損傷を減らすためには、ストーブの中に空気が流れなければなりません。そのために、エ アーコントロールは全開にしてください。

ストーブを焚くシーズンが始まる前に、煙突と連結パイプが詰まっていないかどうか、チェックしてください。

■煙道の掃除



煙道は、バッフル板とその上の煙誘導装置から成っています。どちらもバーミキュライト製なので、慎重に取り扱ってください。

バッフル板を少し持ち上げ、一方の端の方に押します。



バッブル板を持ち上げ、一方の端を傾けながら、バッフル板を取り外します。他方の端は下げ、バッフル板を少し回し、それからそっとバッフル板を取り出します。



バッフル板の上に設置されている煙誘導装置を取り 外すには、一方の端を上げ、他方は下げ、そっと煙誘 導装置を下げて、取り外します。



ごみやほこりを取り除いたら、部品を元のように戻してください。

■運転を中断するとき

●ドアから煙がもれてくるとき

原因は煙突のドラフトが低すぎるのかもしれません(<12Pa以下になっている)。

- ・煙道や煙突が詰まっていないかチェックしてください。
- ・キッチンのレンジフードなどの抽気フードのスイッチが入っているかどうか確認してください。入っていたら、 オフにします。それから、ストーブの近くの窓やドアをしばらく開けておいてください。

●ガラスにすすが付いたのは

薪が湿っているからかもしれません。

・火が付いたのでドアを閉める時、その前にストーブが暖まっていることを確認してください。

ダンパーの調整が低すぎるからかもしれません。

- ●ストーブの燃焼が強すぎるからかもしれません。
- ・ドアシールに漏洩がある。
- ・煙突のドラフトが強すぎる(22Pa以上になっている)。ドラフトをコントロールするためのレギュレーターの装備が必要です。
- ●ストーブの燃え方が弱いのかもしれません。
- ·薪が少ない。
- 室内からの給気が足りない。
- 煙チャンネルが汚れている。
- ・煙突からの漏れ
- 煙突とフルーの間に漏れがある。

以上をチェックし、対処してもなおストーブの機能が悪いときは、ライスの販売店に連絡するか、煙突掃除業者に依頼してください。

⚠ 重要

安全な燃焼を確実にするためには、常に澄んだ黄色い炎と、澄んだ熾き床が絶えないようにしなければなりません。薪の火はくすぶってはならないものです。従って、給気を途絶えさせるようなことは絶対に避けてください。

♠ 警告

煙突の火事が起きたときは

- ●薪ストーブのすべての空気取り入れ口を閉める。
- ●消防署に電話をする。
- ●決して水で消そうとしない。
- ●後から、煙突掃除業者に煙突やストーブを点検してもらう。



/本社・帯広ショールーム 〒080-0010 北海道帯広市大通南28丁目4 TEL.0155-24-6085 FAX.0155-26-0506
 ● 0120-700-027 (平日および第1・3・5土曜)

⊠info@dutchwest.co.jp

http://www.dutchwest.co.jp